

「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」における学習評価

## 評価の信頼性・妥当性を高めるための グループ・モデレーション研修

### 1 はじめに

「総合的な学習の時間」や「総合的な探究の時間」の評価方法として、ポートフォリオ評価やパフォーマンス評価などがあります。しかし、このような質的な評価方法において課題となるのが、評価の信頼性と妥当性の保証です。特に、観察・実験、レポートの作成、論述等の質を判断する場合には、その信頼性と妥当性の保証とその証明機能を果たすルーブリックが必要となります。ルーブリックとは、評価規準における数的な段階の尺度と、各尺度に見られる質的な転換点の特徴を記述した評価基準を表したものです。ルーブリックは児童生徒の到達度を評価するだけでなく、その伸長を見取ることができます。また、質的に高められた評価の基準が段階的に示されることから、児童生徒の資質・能力を高めるための手立てを講じることができます。

ルーブリックの作成は、可視化しにくい教師一人一人の価値観や判断基準が大きく影響します。したがって、児童生徒のパフォーマンスや作品を評価資料として教師が評価する際には、モデレーション(調整)によって作成されることが肝要です。そこで、複数の評価者が評価資料について協議するグループ・モデレーション研修を紹介します。今回は、多くの児童生徒や教職員の方々が悩んでいる「課題の設定」に焦点を当て、グループ・モデレーション研修を通して、より信頼性と妥当性を保証するためのルーブリックの作成方法を紹介합니다。ぜひ、校内研修や教科会等でご活用ください。

### 2 「課題の設定」におけるグループ・モデレーション研修の手順

#### 事前準備

(1) 各校で定めた「目標」「内容のまとめりごとの評価規準」を確認する。

(2) 「課題の設定」について評価できる児童生徒の記録や成果物(評価資料)を用意する。



参加者の人数にもよりますが、3～10点の評価資料を用意することが望ましいです。また、(参考③)のように「課題の設定」を「問題発見」「解決方法」等に細分化することも考えられます。

(3) 参加者のグループ編成をする。

(4) 参加者の協議内容を可視化するための表(参考①)を作成する。



プリント、模造紙を用いてもよいですが、**共同編集アプリ**を用いて表を作成しておくこと、集計したり、構造化したりする際に効率的に作業をすることができます。

## 研修の流れ

(1) 研修の目的やゴールを全体で共有する。

(2) 学校で決め出した観点に基づいて、評価資料を観察する。

ここでは、他の参加者と相談せず、一人で観察するようにします。評価者によって評価が異なることを実感することもねらいです。



(3) 参加者はそれぞれの評価資料に1～5点で採点し、その評価資料の特徴を記述する。

(4) 事前に決めておいたグループに分かれ、司会者を決め、各評価資料の採点と特徴について交流する。

(5) 観点ごとに協議し、各観点のキーワード（構成要素）を抽出する。

(6) キーワード（構成要素）を用いて評価基準を作成し、評価基準（例：A、B、C）ごとのルーブリック（参考③）を作成する。

ルーブリックの作成方法は2種類の方法があります（参考②）。方法①は構成要素の重み付けによって段階付けする方法で、方法②は構成要素が2つの場合に用いる方法です。



(7) 評価基準のCの児童生徒に対する指導の手立てについて検討する。

(8) 各段階における評価事例を設定する。

言葉だけではイメージできないこともあります。具体的な児童生徒の事例を設定しておくことで共有しやすくなります。



(S 中学校 研修の様子)



<参考①>各参加者の採点とその特徴

評価資料	氏名	採点	特徴	観点以外の特徴
評価資料①	参加者①	2	調べ学習で終わってしまうような課題	発想が面白い
	参加者②	4	課題の設定の理由がはっきりしている	
	参加者③	3	自分の興味・関心から始まっている	テーマとの関連性がない
評価資料②	・・・			

<参考②>ルーブリックの作成方法

段階	AA	A	B	C
方法①	すべての要素を含むもの	1番目と2番目と3番目に重要な要素を含むもの	1番目と2番目に重要な要素を含むもの	1番目に重要な要素を含むもの
方法②	AもBも含む	Aは含むがBは含まない	Bは含むがAは含まない	AもBも含まない

<参考③>方法①によるルーブリックの例（中学校3年生）

評価の観点	AA	A	B	C
課題の設定	問題発見 体験活動や調査活動から得た情報の中から、自分との関わりをもとに、妥当性・可能性などの判断が伴う課題を設定している。	問題発見 体験活動や調査活動から得た情報の中から、自分との関わりをもとに、新しい意味づけを見いだす課題を設定している。	問題発見 体験活動や調査活動から得た情報の中から、事実を確認したり、発見したりする課題を設定している。	問題発見 体験活動や調査活動から得た情報の中から、課題を設定することができない。
	解決方法 課題に対する予想を立て、課題解決のための多様な解決方法を考え、連続性・実現性のある計画を立てている。	解決方法 課題に対する予想を立て、課題解決のための解決方法を考え、計画を立てている。	解決方法 課題解決のための解決方法を考え、計画を立てている。	解決方法 解決の方法を考えることができない。

### 3 最後に

ルーブリックは1回作成したら終わりではなく、常に児童生徒の実態に応じて改善と修正を行うことが大切です。また、必要に応じて、他校のルーブリックと比較検討することによって、より評価の信頼性や妥当性を高めることができます。

「総合的な学習の時間」や「総合的な探究の時間」については、指導要録では観点別の評定が求められているわけではありませんので、ルーブリックを教師が正式に作成する必要はありません。しかし、課題設定力やコミュニケーション能力や情報活用能力のように、明確な判断基準が作成可能である観点については、事前にルーブリックを使って児童生徒と共有したり、評価した結果を児童生徒にフィードバックしたりすることは、より児童生徒の探究活動を駆動することにつながります。また、児童生徒に自己評価のためのルーブリックを教師とともに作成し、自己評価を行う場面を設定することで、児童生徒が主体的に自己評価力を身につけることにつながります。

冒頭でも述べましたが、評価の背景には、可視化しにくい評価者の価値観やこだわりが存在します。これらをざっくばらんに出し合うことが教師の鑑識眼を豊かにしたり、指導力を高めたりすることができます。本研修方法を参考にしながら、学校独自の研修方法を編み出していただければ幸いです。

## <参考文献>

- (1)中央教育審議会答申（平成28年12月）
- (2)中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編（平成29年告示）
- (3)高等学校学習指導要領解説総合的な探究の時間編（平成30年告示）
- (4)大島純・千代市西尾祐司編「学習科学ガイドブック」（2019年・北大路書房）5.4 探究学習
- (5)文部科学省『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』2013年,p.20～25
- (6)「改訂版タキソミー（Revised Bloom's Taxonomy）」の枠組み（出典：L. W. Anderson and D. R. Krathwohl eds., A Taxonomy for Learning, Teaching, and Assessing: A Revision of Bloom's Taxonomy of Educational Objectives, Longman, 2001, p.28.）
- (7)「知識の構造」の枠組み（出典：J. McTighe and G. Wiggins, Understanding by Design Professional Development, ASCD, 2004, p.65）
- (8)「学習の次元（Dimensions of Learning）」の枠組み（出典：R. J. Marzano, A Different Kind of Classroom: Teaching with Dimensions of Learning, ASCD, 1992, p.16.）
- (9)香田健司, 佐藤真「ルーブリック開発のためのグループ・モデレーションの方法に関する研究－「総合的な学習」におけるポートフォリオ評価を中心として－」日本学校教育学会第20回大会実践的研究論文,2005
- (10)石井英真「学力向上」篠原清昭編著「学校改善マネジメント」ミネルヴァ書房, 2012
- (11)桑田てるみ『思考を深める探究学習』全校学校図書館協議会, 2016, p.26.
- (12)後藤芳文・伊藤史織・登本洋子『学びの技 14歳からの探究・論文・プレゼンテーション』玉川大学出版部,2014年,p.26